

バンコク稲門会

Overseas TOMONKAI

Thailand



Bangkok

バンコク稲門会について

タイには、日系企業が6000社超、バンコクには日本食レストランが2000軒以上あるといわれています。日本人学校の児童・生徒は小・中合計で3000人を超え、今にもパンクしそうです。大使館が把握している在留邦人だけでも5万人以上、一時的に滞在している方も含めると、タイにいる日本人は10万人を超えるという説もあります。当然、早稲田の校友も数百人単位に達すると思われます。



懇親会の模様(2013年10月)

活動が続いています。ほぼ毎月開催される懇親会には、上は79歳から下は23歳まで、毎回約30人前後が集まります。そして、和やかな雰囲気での政治・経済・文化やビジネス等の意見交換をする、有意義な機会になっています。また、ゴルフコンペは2回の早慶対抗を含め、年6回開催。三田会とはゴルフだけでなく、合同クリスマスパーティーも催しています。これらの集まりでは、開催時期に訪タイされた方の「飛び入り参加」もおおいに歓迎しております。



2012年5月に行われた「早慶対抗ゴルフ150回記念コンペ」の稲門会メンバー。48人が参加し三田会に勝利

詳しい記録は残っていませんが、第1回早慶対抗ゴルフコンペが1972年に開催されていますので、バンコク稲門会の歴史は40年以上になりそうです。2014年1月末現在の会員数は153名。老若男女国籍を問わず、大変活発な

バンコクの魅力

日本では春先のこの時期、バンコクのマーケットにはドリアン、マンゴー、マンゴステインをはじめ、おいしい果物が並びます。見ているだけでも楽しいのですが、実際に食べてみると、その魅力のとりこになります。美しい海と緑の山々も市内から車で約1時間の距離です。海では釣りもできますし、スキューバダイビングのポイントもたくさんあります。また、山の自然公園では、象をはじめ、さまざまな動物に出会えます。そして、近郊には素晴らしいゴルフ場がたく

さんあります。午前中はゴルフ、その後タイマッサージをしてもらい、夜は少し辛めのタイ料理を楽しむ——これがタイを訪れる多くの男性諸氏がエンジョイしている典型的なコースの一つです。世界中から人びとが集まるダイナミックな大都市バンコクでは、日本料理やイタリアンをはじめ、世界中の美味しい料理が楽しめます。また、観光やビジネスだけでなく、充実した医療のサービスを受けにやって来る人たちも大勢います。



アユタヤの遺跡群



山田長政をはじめ、数多くの日本人が住んでいたアユタヤ日本人町の跡

市内各所にある大型ショッピングセンターには、ブランドものやアジアの製品がふんだんに並び、買い物も楽しみの一つです。現在のバンコクは男性だけでなく、女性にとっても十分エンジョイできる街になりました。

林 幸男(1977年商学)

バンコク稲門会の人びと

会長メッセージ

バンコクは活気あふれる街です。当会の会員も、一般民間企業、官公庁、若き起業家、歌手、弁護士、公認会計士、地元プロサッカーチームの監督、レストランオーナー、先生、幼稚園オーナーなど、実に幅広い分野で活躍中です。会員が集まれば、年齢・性別・国籍も関係なく、さまざまな話題でいつも盛り上がっています。

役員・幹事は全員がボランティアで活動しているため、それぞれの催し物が負担にならないよう助け合い、協力し合い、みんなが気軽に参加できるようにしています。懇親会を開催回数を増やしたことで参加者が増加すると同時に、ルーティン化されたことで運営が円滑になりました。会員それぞれの素晴らしい才能や財産をもっと有意義に生かせるよう、今後も会のあり方自体を発展させていきたいと考えています。

バンコクには当会に入会されていない校友の皆さまが、まだ大勢いらっしゃいます。今後も新規会員の勧誘・広報活動に努め、稲門会をますます発展させていきたいと思っております。また、日本からはじめ、世界各地からタイにお越しになる際にはぜひ、ご訪問の時期を当会の行事に合わせていただき、飛び入りで参加していただければと思います。

西田久生(1975年政経)

●日本からタイに帰国して、はや14年がたちました。国費留学生として修士課程を修了後、日本でのサラリーマン生活を経験しタイに帰国。その年、すぐに稲門会に入会しました。当時は見上げるような先輩ばかりの会でしたが、今では年下の後輩が増え続けています。

三田会さんとの年に2回の早慶ゴルフ戦では、団結して毎回白熱した戦いを繰り広げています。2カ月に1回開催される夕食会も毎回多くの新メンバーを迎えており、みんなの名前を覚えるのに必死です。タイ人の私が日本に帰国するための退会というのはあり得ないので、長老になるまで日タイ友好のため頑張っていきたいです。

ウイム・マノーピモーク(1997年商研修)

会員からのメッセージ

●学部時代に早稲田大学に留学していました。初めて触れる日本の文化は、見る物全てが新鮮でした。稲門会に参加するたびに、学生時代の気持ちがよみがえります。私にとって稲門会は「若返りの泉」のようです。



日本人学校での教育に大きく貢献してきたパースク・ブラカスキャン会員。2012年5月には旭日双光章を叙勲された。在タイ日本国大使公邸にて

バンコク日本人学校で働き始めてから34年になりました。現在はディレクターとして、学校運営に関わっています。本校を巣立った子どもたちが、タイと日本の「サパーンジャイ」(架け橋)になっ

れることを願い、日々仕事に邁進しています。

パースク・ブラカスキャン(1970年商学)

●2013年3月に卒業し、事業立ち上げのために6月からバンコクで働き始めました。同じアジアと言えど初めて触れる文化に戸惑うことも多々ありますが、親切で面白い先輩方にいろいろと教わっております。駐在でいらしている方、起業された方、政府機関で働かれている方、私が生まれる10年前から住んでいらっしゃる方など、稲門会の皆さまはとても幅広く、繋がりを持つことに本当に感謝しています。卒業してようやく、早稲田大学の本当の偉大さを実感している次第です。

小安恵里奈(2013年国際教養、水泳部OG)

●早稲田大学とUCLA大学院に留学し、母国に戻って来たのは2年前でした。毎月懇親会に参加し、クリスマス会の幹事も務め、「えんじ色に染まっているタイ人」だといわれています。

バンコク稲門会は20代~80代までの方々で構成され、居心地のよい集まりです。異なる世代や出身地にもかかわらず、政治、経済、文化、人生経験について熱く語り合い、最後には校歌を歌います。こうした活動を通し、早稲田の深い絆で結ばれていることに感謝しています。

ウドムマナ・プロムチャワン(2002年教育)